

羽田空港において大型自動運転バス実用化に向けた実証実験を実施 ～電気バスを使用し、2020 年内の試験運用を目指します～

- ◆ 57名乗りの大型自動運転バスを実用化に向け、空港制限区域内で自動運転レベル3相当の実証実験を実施
- ◆ 2020 年内に、お客様・従業員の空港内の移動手段として輸送の試験運用を開始
- ◆ CO2 削減等の環境への配慮からも、電気バスを導入



大型自動運転バス外観①



大型自動運転バス外観②

ANA は、SBドライブ株式会社、先進モビリティ株式会社、ビーワイディー・ジャパン株式会社の協力のもと、2020 年 1 月 22 日から 31 日までの間、羽田空港の制限区域内において「大型自動運転バスの実用化」に向けた実証実験を実施し、2020 年内における羽田空港での試験運用を目指します。

ANA では、技術革新の流れを確実に捉え、「人と技術の融合・役割分担の見直し」を図り、Simple & Smart な空港オペレーションの実現に向けて、航空分野におけるイノベーションを推進しており、自動運転技術の実用化に向けて、2018 年 2 月の羽田空港新整備地区、さらには 2019 年 1 月の羽田空港制限区域内において実証実験を重ねてきました。

本実証実験では、実際のオペレーションを想定した走行ルートや大型車両を選定し、技術面・運用面の具体的な課題の抽出を行い、決められたルートを走行するバス輸送における自動運転技術の実用化につなげていきます。

今回の実証実験結果を評価・分析し、抽出された課題への対応を踏まえた上で、お客様の乗り継ぎの利便性向上や、空港従業員の移動の効率化を目的とした試験運用(自動運転レベル 3^{※1}相当)を 2020 年内にスタートします。

また、空港における車両の電化は、自動運転技術等との親和性が高く、イノベーション推進のベースとなるだけでなく、航空業界全体の喫緊の課題である CO2 排出量の削減にも貢献するため、本実証実験より電気バスを導入します。

※1)自動運転レベル 3: システムが全ての運転タスクを実施するが、システムの介入要求等に対してドライバーが適切に対応することが必要

◆実証実験の概要

- (1)実施期間:2020年1月22日~31日(休日除く8日間)
- (2)実施場所:羽田空港第2ターミナル 制限区域内 北乗降場→65番スポット付近→北乗降場 1周約1.9km
- (3)使用車両:ビーワイディージャパン株式会社の「K9RA」をベースに改造した自動運転バス
(主な搭載機器:自動操舵装置、EBS(Electronic Brake System)、GNSS受信機、ジャイロセンサ、各種センサ、走行制御コンピュータ、認識処理コンピュータ)
- (4)主な実施内容:
・空港制限区域内における大型自動運転バスによる自動運転レベル3相当での走行検証
・自動運転バスの実用化に向けた課題の抽出、必要な環境整備の検証
- (5)各社の役割:

会社	主な役割
SBドライブ株式会社	遠隔監視システム「Dispatcher」の提供、添乗員操作用アプリの提供
先進モビリティ株式会社	自動運転技術の提供、空港制限区域内の自動走行に関する技術検証
ビーワイディージャパン株式会社	ベース車両の提供、メンテナンス支援
ANA	関係各所との運用諸調整、ドライバーの派遣、実用化を見据えた課題抽出

別添資料:各社の役割の概要

以上